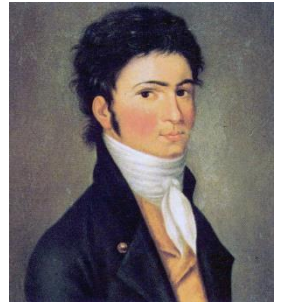


特集ベートーヴェンピアノ・ソナタ編

ベートーヴェンはピアノ・ソナタの形式と表現を広げ、32曲（作品番号 Opus 付きのもの）を残しました。ハンス・フォン・ビューローが“ピアノの新約聖書”とたたえた楽曲は数多くのピアニストたちによって録音されました。音楽資料室の所蔵音源からご紹介します。（★は請求記号）



アルトゥール・シュナーベル (1882-1951) 全集 LP★X27.1~X28.3

ポーランドで生まれ、ウィーンで学び、ベルリンに移住してヨーロッパ、アメリカで活躍した。20世紀前半、ベートーヴェン演奏の最高権威とみなされ、ソナタ全曲世界初録音や校訂版楽譜で絶大な影響力を持った。

ヴィルヘルム・バックハウス (1884-1969) 全集 LP★E70.1~E70.0

ライプツィヒ出身、“鍵盤上の獅子王”と呼ばれ、至高のベートーヴェン録音を残した。50年代前半に全曲録音を行ったが、1959~69年にステレオで再録音した。『ハンマークラヴィーア』のみ再録音を果たさず他界し旧録音となっている。

ヴィルヘルム・ケンプ (1895-1991) 全集 LP★E45.1~E46.1

ドイツの名匠としてバックハウスと人気を二分し、4分の3世紀にわたり演奏活動を行った。モノラル、ステレオの2種類の全集を録音したが1960年代半ばの全集の格調高い演奏は高く評価された。1961年の3度目の来日でのピアノ・ソナタ全曲演奏会は、CD★6J8.38~46

クラウディオ・アラウ (1903-1991) 全集 LP★R106.1~R107.3

南米チリ出身の20世紀を代表するピアニスト。11歳でベルリンでデビューし、88歳で現役で世を去った。師クラウゼから受け継いだドイツ音楽の精神は2度のソナタ全集、3度の協奏曲全集に結実した。

フリードリヒ・グルダ (1930-2000) 全集 LP★X55.7 ほか

ウィーン生まれのピアニスト。独創的、天才肌、鬼才と形容され、若い頃からクラシックとともにジャズを愛し、両者を取りまぜた演奏会を開いたりした。しかしウィーンの伝統は確実に継承し、ベートーヴェンのソナタ全集は3度録音している。上記LPは1967年録音。

アルフレート・ブレンデル (1931-) CD★2J7.72 ほか

モラヴィア出身、ウィーンでデビュー、当時ベートーヴェンのピアノ曲全集を録音した最年少ピアニストだった。（「さすらい人ブレンデル」、マイヤー著、図書★6.9-B75M-01）

69年にロンドンに移住、ヨーロッパの芸術に対する学究的な作品分析による演奏は、強い説得力を持った。3度ソナタ全集を録音したが、1992年からの3回目の録音は円熟した名演となっている。

マウリツィオ・ポーリーニ (1942-) 全集 CD★5J4.53 ほか

ミラノ音楽院で学び、18歳でショパン国際コンクールで優勝。審査員のルビンシュタインが「私たちの中で彼以上に巧みに弾けるものがあるだろうか」と語ったという逸話がある。ライフワークとも言えるベートーヴェンで、40年近くかけて(1975-2014)ソナタ全集を完結させた。

アンドラーシュ・シフ (1953-) 全集 CD★5J1.43-44 ほか

ハンガリー・ブダペスト生まれ。リスト音楽院で学んだのち、数々のコンクールなどで多数受賞し、国際的に活動する。バッハ、モーツァルト、シューベルトなどの学究的な解釈で知られたが、2005年頃からベートーヴェンのソナタに集中し、作曲者の創作の過程をたどる意図で作品番号順に録音した。曲によってスタインウェイとベーゼンドルファーを弾き分けている。

野平一郎 (1953-) 全集 CD★3J6.37 ほか

東京芸術大学卒業後パリ国立高等音楽院で学んだ。作曲、ピアノ、指揮、教育など多方面で活躍している。ピアノ・ソナタ全集録音のほか、32曲の中から12曲を作曲年代順に選んで、楽曲分析を行った労作「ベートーヴェンピアノ・ソナタの探求」(2017、春秋社) 図書★2.57-B393N-17も上梓している。

仲道郁代 (1963-) 全集 CD★4J7.61 ほか

桐朋学園大学1年のときに日本音楽コンクール第1位、以後多くの賞を受賞し、人気、実力ともに日本を代表するピアニストとして活躍している。2002年に彩の国さいたま芸術劇場で諸井誠の解説・監修によるピアノ・ソナタ全32曲を演奏し、合わせてCD11枚を収録した。2007年に完結した最終巻の「第30番・第31番・第32番」はレコード・アカデミー賞を受賞した。諸井誠著「ベートーヴェンピアノ・ソナタ研究Ⅰ～Ⅲ」(2007～2010、音楽之友社)は 図書★2.57-B393M-1～3

小菅優 (1983-) CD★6J5.14-15 ほか

東京生まれ。9歳でリサイタルを開き、以後ヨーロッパで研鑽を積みながら国際的に活躍している。2010年からベートーヴェンソナタ全曲演奏会を開始、2015年に完結させた。並行してソナタ全集を録音した。協奏曲や室内楽から歌曲までピアノ付きの曲全てを弾くプロジェクト「ベートーベン詣(もうで)」に取り組んでいる。音楽への真摯な取り組みは高く評価され、2016年にサントリー音楽賞を受賞している。ベートーヴェンには音楽家人生を通じて何度も挑戦したい、と語っている。



*参考資料 Ontomo Mook「ピアノ&ピアニスト」ほか

2020年8月発行 東京文化会館音楽資料室